

ゆるやかに「人」とつながる

コレクティブハウスと 住まい方

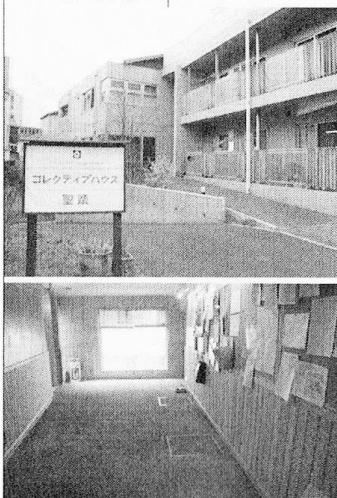
シングルの人や夫婦、子育て家族などが共同で暮らしを営む「コレクティブハウス」が注目されている。だが、よく聞くシェアハウスとは少し違う。どのような住まいなのか?と思つて訪ねると、日本のこれから家族、社会のあり方を深く考えさせられるのだった。

土曜日の屋下がり、東京都多摩市にあるコレクティブハウス聖蹟(以下、CH聖蹟)を訪ねた。新宿から特急で約30分の京王線聖蹟桜ヶ丘駅から徒歩5分ほど。小川の近くにしゃれた2階建ての建物が現れた。コンクリートの玄関ホールでスリッパに履き替え、食堂のよつな場所へ。

コモンスペースと呼ばれるコレクティブハウスの核と呼べる部屋だ。4、5人の中高年男女のグループの横のテーブルで、2、3歳の男の子たちが遊んでいた。見慣れぬ訪問者を不思議そうにじっと見て

いる。子どもから高齢者まで、さまざまな家族、単身者が

「コレクティブハウス(collective house)」とは、共同の食堂など、いくつかの



(上) コレクティブハウス聖蹟の外観
(下) 玄関ホール

「コレクティブハウスリ老人ホーム」という誤解

いる多様性は、コレクティブハウスの大きな特徴の一

共用部分の掃除や建物の管理などは、居住者が話し合い、決定する。それぞれ何らかの役割を担つて、CH聖蹟では月一回、定例会が開かれる。自分たちの暮らしは、自分たちで

まい」というイメージが最初に広がった。以降、ユニティーの崩壊、子育ての孤立化、無縁社会など、つねに社会問題の一つの解

決策として取り上げられたきたものの、今の日本ではまだ、コレクティブハウスが一般的に正しく理解されているとはいえないようだ。

参加し始めた当初は戸惑うことも多かったものの、自分たちが住む場所、自分たちの生活を自分たちで創造していくことが実感でき、

「すべて初めての体験。た

CH聖蹟が完成したのは2009年4月。07年6月から居住希望者を募集し、その段階から参加している居住者もいる。

つまり大家事が事業化を決め、居住予定者が設計者などと話し合いを重ねて、自分の暮らしに合った建物の建設をまとめ、実現させた。

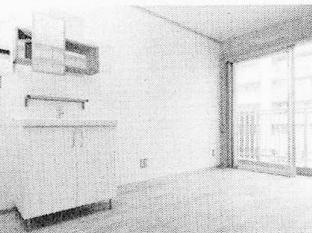
最初はまず、大家さんと街歩きをし、地域を見て回った。建物については、模

いへんなこともありますたが、住まいに愛着が湧いてきたのです」(矢田さん)

CH聖蹟の計画立ち上げから実現化まで尽力してきたのは、NPOコレクティブハウジング社。コレクティブハウスのコードィネーターなどに關わってきた。

普通の賃貸マンションに住んでいましたが、子どもも生まれ、暮らしがを考えたときにはCH聖蹟のことを探りました

ざまだ。地階にガレージや駐輪場、トランクルームなどがあり、エレベーターも設置。屋上には菜園が設けられている。



住戸の例

日本では80年代から、女性が生き生きと生活できる社会を目指す研究グループが、コレクティブハウスに注目し始めた。この言葉がマスメディアに登場したのは、95年の阪神・淡路大震災後、復興住宅の取り組みの中でのこと。

高齢被災者が新しい暮らしで孤立しないためにコレクティブハウスの考え方が導入されたことから、「コレクティブハウスⅡ老人の住

み」というイメージが最初に広がった。以降、ユニティーの崩壊、子育ての孤立化、無縁社会など、つねに社会問題の一つの解

きたもの、今の日本ではまだ、コレクティブハウスが一般的に正しく理解されているとはいえないようだ。

決策として取り上げられてきたものの、今の日本ではまだ、コレクティブハウスが一般的に正しく理解されているとはいえないようだ。

